

第1回 鈴鹿亀山道路有識者委員会 議事録



1. 日時・場所

平成25年7月26日(金)PM2:30～4:45
三重県地方自治労働文化センター 大会議室

2. 委員 (五十音順・敬称略)

| | | |
|-----|-----------------------|-------|
| 委員長 | 名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科教授 | 松本 幸正 |
| 委員 | 三重大学人文学部法律経済学科教授 | 朝日 幸代 |
| | 三重短期大学生活科学科教授 | 岩田 俊二 |
| | 名古屋工業大学都市社会工学科准教授 | 増田 理子 |
| | パブリック・ハーツ株式会社代表取締役 | 水谷 香織 |

3. 議 事

- (1) 計画検討の発議
- (2) 手順の明確化
- (3) コミュニケーションプロセス

4. 議 事 録

○委員会規約について

- ・ 規約第8条3項では非公開とする場合を規定しているが、今回の会議の内容は、非公開に該当しないため公開とし、事務局にて議事概要を作成し、委員の確認を得た後にホームページ等で公表する。

(1) 計画検討の発議

- ・ 現状の条件下だけでなく、「将来の住みやすい環境を作るためのインフラ整備」という観点からも考えるため、三重県、中部圏における産業振興計画を踏まえて道路整備を検討していくことが重要である。
- ・ 住民の視点で考える道路整備の必要性や道路整備によるプラス、マイナス面を検討する必要がある。
- ・ いつぐらいに検討し、いつ頃できあがるのかというスケジュール感を提示することが望まれる。
- ・ 「広域としての道路」と「地域としての道路」の両方の観点から必要性を整理すべきである。
- ・ 鈴鹿亀山道路に関して検討を始めるべきという事務局の提案に対し、計画検討を始めるにふさわしいということで、本委員会は結論づける。

(2) 手順の明確化

- ・ 配慮書作成において、「振動」についても、今後の関係者との調整の中で考慮しながら検討する。
- ・ 計画段階環境配慮書の作成にあたっては、ゼロ・オプションの検討を入れる方が良いのではないかと。
- ・ 計画の決定権者や関係者などが、いつどのように関与するのかを分かるように明記すべきである。

(3) コミュニケーションプロセス

- ・ 意見聴取については、幅広い年齢層でやってほしい。特に若い年齢層である18才未満の方や、20～30代の方について配慮をお願いしたい。また、道路利用者の意見をお聞きすることも重要であり、高速道路のサービスエリアや道の駅で、できれば平日と休日にアンケートをとってはどうか。
- ・ アンケートについて、コスト面の項目を追加してほしい。「税金を投じてでも整備すべきか」や「税金の投入を極力抑えるべきか」といった「意識」を聞いてほしい。
- ・ コミュニケーションプロセスでは、ニーズを吸い上げるだけではなく、その結果を返すことが必要であり、2回の意見聴取の対象者の属性を同じにしてフィードバックするなどの配慮が必要である。
- ・ 意見聴取の際には、道路整備ありきにならないように配慮する必要がある。
- ・ 「誰に、何を伝え、何を聞いて、どう整理・分析し、どう反映・対応するか」を簡潔に整理すべき。
- ・ ヒアリング等で得られた意見をアンケートの選択肢の中に入れ、定量的に確認する形が望ましい。
- ・ ヒアリングで「他に聞き取りをした方がいい人」を聞くことで、聞くべき人の漏れを防ぐことができる。
- ・ 情報提供が大事であり、広報誌、オープンハウス、常設展示、ホームページなどが良い。
- ・ 意見交換会で活発な議論を行うためには、1グループ8人以内(4～8人)が望ましい。
- ・ (2) 手順の明確化、(3) コミュニケーションプロセスについて、方向性は本委員会で承認。今後、事務局にて本委員会の意見を反映し、資料の作りこみを行う。

以上